

三谷恵子教授 略歴・業績目録

略歴

昭和 32 (1957) 年 8 月 20 日 東京都に生まれる
 昭和 51 (1976) 年 4 月 東京大学教養学部文科 III 類入学
 昭和 56 (1981) 年 3 月 東京大学文学部露語露文学専門課程卒業
 昭和 56 (1981) 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科ロシア語ロシア文学専門
 課程修士課程進学
 昭和 58 (1983) 年 3 月 同修士課程修了
 昭和 58 (1983) 年 4 月 同博士課程進学
 昭和 61 (1986) 年 10 月 ユーゴスラヴィア政府給費留学生として昭和 64 (1988)
 年 9 月までザグレブ大学哲学部に留学
 平成 1 (1989) 年 3 月 東京大学人文科学研究科博士課程単位取得満期退学
 平成 1 (1989) 年 4 月 図書館情報大学非常勤講師
 平成 2 (1990) 年 4 月 東京大学文学部助手 (ロシア語ロシア文学研究室)
 平成 5 (1993) 年 6 月 筑波大学文芸・言語学系講師
 平成 9 (1997) 年 7 月 同助教授
 平成 11 (1999) 年 4 月 京都大学大学院人間・環境学研究科助教授
 平成 17 (2005) 年 4 月 同教授
 平成 25 (2013) 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授
 令和 4 (2022) 年 1 月 17 日 在職中に逝去

学位

平成 1 (1989) 年 3 月 社会・人文学博士 (言語学分野)
 Doktor društveno-humanističkih znanosti, područje filologije
 ザグレブ大学哲学部
 平成 4 (1992) 年 9 月 博士 (文学)
 東京大学大学院人文科学研究科

研究業績

I. 学位論文

A. 博士論文

1. *Glagolski vid u hrvatskom ili srpskom jeziku* (『クロアチア語もしくはセルビア語の動詞の体』) 1989 年、全 179 頁、ザグレブ大学哲学部 (クロアチア社会主義共和国)。
2. 『ロシア語における名詞句の構造と機能の研究 — 発話のなかの名詞句の不定・定・照応 — 』 1992 年、全 375 頁、東京大学大学院人文科学研究科。

B. 修士論文

3. 『Domostroj の言語 — コンシン所蔵写本による言語的特徴の研究』 1992 年、I (論文) 85 頁 ; II (語彙集) 143 頁 ; (全訳) 154 頁、東京大学人文科学研究科。

II. 著書

A. 単著

4. 『クロアチア語ハンドブック』 大学書林、1997 年、xiv+260 頁。
5. 『クロアチア語常用 6,000 語』 大学書林、1998 年、v+373 頁。
6. 『ソルブ語辞典』 大学書林、2003 年、xxxix+708 頁。
7. 『クロアチア語のしくみ』 白水社、2009 年、全 144 頁。
8. 『スラヴ語入門』 三省堂、2011 年、全 200 頁。
9. 『比較で読みとくスラヴ語のしくみ』 白水社、2016 年、全 246 頁。
10. 『クロアチア語のしくみ《新版》』 白水社、2021 年、12 月、全 146 頁。
11. 『比較で読みとくスラヴ語のしくみ [新版]』 白水社、2025 年、全 245 頁。

B. 共編著

12. Zoran Rašović, MITANI Keiko, KASAI Yasunori, MATSUMOTO Emi, eds., *Comparative Studies of Civil Law between Modern South Slavic Regions and Japan: Structure, Origin, and Language* (Podgorica: Montenegrin Academy of Sciences and Arts, 2020).
13. 羽場久美子 (編集代表)、井口壽乃、大津留厚、桑名映子、田口雅弘、中澤達哉、長與進、三谷恵子、山崎真一 (編集委員) 『中欧・東欧文化事典』 丸善出版、2021 年 [三谷恵子 (執筆項目) 「セルビア、コソヴォ、モンテネグロ」 32-33 頁 ; 「クロアチアのジェンダー」 270-271 頁 ; 「東欧の文学」 360-361 頁 ; 「東欧の言語と国家」 404-405 頁 ; 「東欧のマイノリティ言語」 408-409 頁 ; 「バルカンの言語・南スラヴ諸語」 422-423 頁 ; 「セルビア、クロアチア、ボスニアの食文化」 498-499 頁 ; 「セルビア、モンテネグロと日本」 684-685 頁]。

III. 翻訳

14. スラヴェンカ・ドラクリッチ『バルカン・エクスプレス — 女心とユーゴ戦争』三省堂、1995 年、xiv+247 頁。
15. ドゥブラヴァ・ウグレンシチ「君の登場人物を貸してくれ」『愛のかたち（世界文学のフロンティア第2巻）』岩波書店、1996 年。
16. ミロラド・パヴィッチ『帝都最後の恋（東欧の想像力 4）』松籟社、2009 年、xviii+200 頁。
17. メシヤ・セリモヴィッチ『修道師と死（東欧の想像力 10）』松籟社、2013 年、全 464 頁。
18. ジェヴァド・カラハサン「1993 年の手紙」；ミリエンコ・イェルゴヴィッチ「盗み」中東現代文学研究会編『中東現代文学選 2012』研究報告書、2013 年、7-41 頁；42-45 頁。
19. カリム・ザイモヴィッチ「姿なき怪奇（抄訳）」；ミリエンコ・イェルゴヴィッチ「電話帳」「お嬢さん（ハムミツァ）」中東現代文学研究会編『中東現代文学選 2016』研究報告書、2017 年、175-179 頁、181-186 頁。
20. ミロラド・パヴィッチ『十六の夢の物語 M・パヴィッチ幻想短編集』松籟社、2021 年、全 212 頁。

IV. 論文（いずれも単著）

21. 「Domostroj の言語 — コンシン所蔵写本による言語的特徴の研究より — 」『ロシア語ロシア文学研究』16 号、1984 年、69-84 頁。
22. 「否定を含む他動詞構文について」『ロシア語研究』2 号、1989 年、1-15 頁。
23. 「存在と不在を巡る問題」『RUSISTIKA』6 号、1989 年、77-108 頁。
24. 「это と人称代名詞の照応機能について — 名詞句の照応をめぐる一考察」『ロシア語ロシア文学研究』22 号、1990 年、1-12 頁。
25. 「1 について — 不定形容詞としての один」『RUSISTIKA』8 号、1991 年、1-27 頁。
26. 「談話の構造におけるスラヴ語の指示詞の照応機能について」『スラヴ研究』38 号、1991 年、17-36 頁。
27. 「ロシア語の-нибудь/-то のタイプの不定代名詞について」『ロシア語研究』4 号、1991 年、56-89 頁。
28. 「ロシア語の様相述語 — 可能世界意味論と語用論の中で — 」『RUSISTIKA』9 号、1992 年、1-26 頁。
29. 「現在のクロアチア語について」『スラヴ研究』40 号、1993 年、75-96 頁。
30. “Modalities, Negation, and Indefinite Pronouns. Serbo-Croatian Indefinite Pronouns,” in MORIYASU Tatsuya, ed., *Comparative and Contrastive Studies in Slavic Languages and*

Literatures: Japanese Contributions to the 11th International Congress of Slavists, Bratislava, Aug. 31 – Sept. 7, 1993 (Tokyo: College of Arts and Sciences, The University of Tokyo, 1993), pp. 41-66.

31. 「ソルブ語について」『RUSISTIKA』10号、1993年、96-116頁〔研究ノート〕。
32. 「上ソルブ語の助詞について — あるいは非論理的助詞の研究」筑波大学つくば言語文化フォーラム編『スラヴ語のパーティクル（対照研究第4号）』1995年、10-28頁。
33. 「脱動作主化とラトヴィア語の『義務態』について」『文藝言語研究（言語篇）』28号、1995年、1-23頁。
34. 「ファウスト・ヴランチッチの『五カ国辞書』とクロアチア語チャ方言の音韻特徴について」『スラヴ研究』42号、1995年、87-100頁。
35. 「標準クロアチア語と標準セルビア語の da-補文と da-目的節について」『述語機能の研究』筑波大学つくば言語文化フォーラム研究報告書、1996年、1-18頁。
36. 「中世ロシア語文献における主格形補語について」『ロシア語ロシア文学研究』28号、1996年、81-92頁。
37. 「『再度...する』をあらわすクロアチア語の pre-動詞について」『筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究報告書（平成9年度II）』1997年、475-482頁。
38. 「クロアチア語の現状」『分離と統合の狭間に立つスラヴの言語・民族問題（創価大学スラヴ東欧研究センター資料集5号）』1998年、9-13頁。
39. 「再解釈、顕在化、多重解釈 — ロシア語の‘2’‘3’‘4’と名詞の結合パターンの変化について — 」『文藝言語研究（言語篇）』33号、1998年、1-29頁。
40. 「『救護者マリアの家』の反復表現 — スロヴェニア語の動詞の体の用法に関する一考察」『筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究報告書（平成10年度II）』1998年、653-666頁。
41. 「ソルブ語の態」『西スラヴ学論集』3号、2000年、8-32頁。
42. 「ユーゴ連邦崩壊後の言語状況 — セルビア・クロアチア語圏を中心に」『現代文芸研究のフロンティア I（北海道大学スラブ研究センター報告書シリーズ第70号）』2000年、134-145頁。
43. 「アスペクトと反復副詞 — スロヴェニア語の動詞の体についての再検討」『DYNAMIS：ことばと文化』4号、2000年、34-57頁。
44. 「空間と分配 — ロシア語の по の意味」青木三郎、竹沢幸一編『空間表現と文法』くろしお出版、2000年、269-297頁。
45. 「前置詞繰り返し再考」『ロシア語ロシア文学研究』32号、2000年、29-44頁。
46. 「コーパスを利用した語彙研究 — -тель 派生形態素を例に」『スラヴ学論叢』5(1)号、2001年、107-119頁。

47. 「下ソルブ語の現状 — 19 世紀から WITAJ までのみちのり」『西スラヴ学論集』4 号、2001 年、68-85 頁。
48. “Glagoli I prefiksacija. O glagolima s prefiksom *pre-*,” in Dubravka Sesar, ed., *Drugi hrvatski slavistički kongres: zbornik radova I* (Zagreb: Hrvatsko Filološko Društvo, 2001), pp. 527-532.
49. 「ロシア語の『体』の研究史」つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』ひつじ書房、2001 年、1-60 頁。
50. 「《グルシコヴィッチ『使徒行実』断片》について — 初期スラヴ語文献研究への一貢献」『DYNAMIS : ことばと文化』5 号、2001 年、1-26 頁。
51. 「言語の自立と社会 — ユーゴスラヴィア (SFRJ) 崩壊から 10 年を経て — 」『DYNAMIS : ことばと文化』6 号、2002 年、28-44 頁。
52. 「ロシア語動詞の「体」— ゲルマニストのための案内」『Sprachwissenschaft Kyoto』(京都ドイツ語研究会) 2 号、2003 年、21-40 頁。
53. “Perfekt u staročakavskom jeziku. Uporaba I gramatičko značenje u srednjovjekovnim tekstovima,” *Comparative and Contrastive Studies in Slavic Languages and Literatures: Japanese Contributions to the 13th International Congress of Slavists, Ljubljana, August 15-21, 2003* (Tokyo: Hitotsubashi University, 2003), pp. 39-56.
54. 「中世スラヴ法文献の統語論的特徴 — スラヴ語比較統語論のために」『ロシア語ロシア文学研究』35 号、2003 年、11-18 頁。
55. 「完了形と過去時制 — 古チャ方言の用法に見る南スラヴ語の動詞体系の変化」『DYNAMIS : ことばと文化』7 号、2003 年、57-75 頁。
56. 「上ソルブ語の語彙目録(レキシコン)の変化と標準語形成の過程」『西スラヴ学論集』7 号、2004 年、4-18 頁。
57. 「ドゥブロヴニクと中世バルカン世界：ストンの買収を巡る歴史と文献の研究+ミロラド・パヴィッチ『ドゥブロヴニクの晩餐』」『DYNAMIS : ことばと文化』8 号、2004 年、91-126 頁。
58. 「Bila jednom jedna zemlja... — 旧ユーゴ各地のメディア、言語、そしてアイデンティティ」沼野充義編『ポスト共産主義時代のクロノトポス』(サントリー文化財団助成「ポスト共産主義時代のロシア東欧文化研究会」成果論集)、2005 年、55-73 頁。
59. 「GREŠTI, ITI, HODITI — 南スラヴ語における 3 つの移動動詞について — 」『DYNAMIS : ことばと文化』9 号、2005 年、54-96 頁。
60. 「Vladimir Ilich dorabotalsia do bessonnicy. ロシア語の do-V-sia 動詞についての記述的考察」『実験音声学と一般言語学 城生佰太郎博士還暦記念論文集』東京堂、2006 年、454-466 頁。
61. 「南スラヴ語の指示代名詞とブルゲンラント・クロアチア語について」『DYNAMIS :

- ことばと文化』10号、2006年、90-126頁。
62. 「下ソルブ語の現在 — 『地域言語または少数言語のための欧州憲章』のソルブ語への適用と WITAJ 計画の現状 — 」『スラヴ世界における文化の越境と交錯』（平成15-18年度科学研究費補助金研究成果報告書〔研究代表者：諫早勇一〕基盤研究（B）課題番号155310171）、2007年、65-87頁。
63. “Balkan as a Sign: Usage of the Word *Balkan* in Language and Discourse of the Ex-Yugoslav People,” in HAYASHI Tadayuki and FUKUDA Hiroshi, eds., *Regions in Central and Eastern Europe. Past and Present* (Sapporo: Slavic Research Center, 2007), pp. 289-313.
64. 「ペテルブルグの言語学 — 二十世紀言語学への貢献」望月哲男編『創像都市ペテルブルグ — 歴史・科学・文化（スラブ・ユーラシア叢書）』北海道大学出版会、2007年、129-152頁。
65. 「旧ユーゴスラヴィア諸国におけるロシア語の地位 — ロシア語教育の現状について — 」『ロシア語研究』20号、2007年、1-13頁。
66. 「地域研究と言語学：Balkan の用法からバルカンを探る」スラブ研究センター監修、家田修編『講座スラブ・ユーラシア学（第1巻）』講談社、2008年、142-168頁。
67. “From Serbia with Love: Verbal Representation of Russia in Serbian Society,” in MOCHIZUKI Tetsuo, ed., *Beyond the Empire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context* (Sapporo: Slavic Research Center, 2008), pp. 353-372.
68. “GREŠTI, ITI, HODITI: tri glagola kretanja u idiomima hrvatskog jezika,” *Comparative and Contrastive Studies in Slavic Languages and Literatures 2008: Japanese Contributions to the 14th International Congress of Slavists, Ohrid, September 10-16, 2008* (Tokyo: Hitotsubashi University, 2008), pp. 60-88.
69. 「下ラウジツのソルブ語 — WITAJ 発足から10年を経て」『西スラヴ学論集』12号、2009年、33-58頁。
70. 「南モラヴィアのクロアチア語 — 言語の維持と変容に関する一考察」『スラヴ研究』58号、2011年、63-90頁。
71. 「『境界』と『媒体』 — 言語から見た中欧」『思想』岩波書店、2012年4月号、73-91頁。

— 東京大学在職期間（2013-2022年） —

72. “Posuđivanje u jezičnom dodiru i struktura jezika: razmatranje na temelju podataka iz govora moravskih Hrvata,” *Comparative and Contrastive Studies in Slavic Languages and Literatures: Japanese Contributions to the 15th International Congress of Slavists* (Tokyo: Hitotsubashi

- University, 2013), pp. 10-46.
73. 「境界を描く — ボスニア出身作家たちのボスニア像 — 」『ロシア・東欧研究』42 号、2013 年、17-31 頁。
 74. *Мимо* в глагольном образовании: проблема разграничения префиксации и сложения в славянских языках // 『ロシア語研究』 2014. № 24. С. 39–53.
 75. “‘Derviš i smrt’ in Japanese: Literary Translation, Bosnia, Japan,” *International Forum Bosnia* 68 (2014).
 76. “Lexicalization, Word Formation, and Productivity: *мимо* in the Verb Formation in Slavic,” in НОМАСИ Motoki, Andrii Danylenko, Predrag Piper, eds., *Grammaticalization and Lexicalization in the Slavic Languages. Proceedings from the 36th Meeting of the Commission of the Grammatical Structure of the Slavic Languages of the International Committee of Slavists* (München: Otto Sagner, 2014), pp. 243-265.
 77. 「『賢者アキルの物語』南スラヴ圏写本の比較研究」『SLAVISTIKA』30 号、2015 年、83-99 頁。
 78. “‘Начело премудрости...’ i južnoslavenski prijepisi priče ‘Slovo Akira premudroga,’” in Редкол. М. М. Макарец, И. А. Седакова, Т. В. Цивьян, *Балканский тезаурус: Начало (Балканские чтения 13 тезисы и материалы. Москва, 7–9 апреля 2015 года)* (Москва: Институт славяноведения РАН, 2015), pp. 167–173.
 79. “Uz-prefixation and the Second Future in Croatian,” in Сост. М. Китадзё, *Аспектуальная семантическая зона: топология систем и сценарии диахронического развития: сборник статей V Международной конференции Комиссии по аспектологии Международного комитета славистов* (Киото: Университет Киото Сангё, 2015), pp. 167-173.
 80. 「クロアチア語の第二未来形と *uz* 接頭辞付加動詞現在形」『SLAVISTIKA』31 号、2016 年、299-316 頁。
 81. 「『十二の金曜日の物語』スラヴリセンション写本の比較研究」『ロシア語ロシア文学研究』68 号、2016 年、1-23 頁。
 82. 「『ヨアシ王の夢』 — 中世スラヴテクストの分析 — 」『ロシア語研究』26 号、2016 年、91-109 頁。
 83. Синтаксичке одлике словенских средњовековних законика. Прилог компаративној синтакси словенских језика // *Serbica Iaponica: Допринос јапанских слависта српској филологији* (Студије о Србима, књ. 22) / Уред. Мотоки Номаћи. Нови Сад: Матица српска, 2016. С. 23–34.
 84. Дубровник и свет средњовековног Балкана. Историјске и литературне чињенице у вези са куповином Стона. // *Serbica Iaponica: Допринос јапанских слависта српској филологији*

- (Студије о Србима, књ. 22) / Уред. Мотоки Номаћи. Нови Сад: Матица српска, 2016. С. 36–57.
85. “Slavic Versions of the Skanderbeg Story: Textual Relationship and Narrator Attitude,” in Редкол. М. М. Макарец, И. А. Седатова, Т. В. Цивьян, *Балканский тезаурус: Взгляд на Балканы извне и изнутри. Москва, 18–20 апреля 2017 года* (Москва: Институт славяноведения РАН, 2017), pp. 52–56.
86. 『コンスタンティノス一代記』13 章 “ソロモン王の盃の銘” — R.ヤコブソンのスラヴ文献学への貢献、再訪『SLAVISTIKA』32 号、2017 年、73-90 頁。
87. “The Croatian Tradition of the Story of Akir the Wise in South Slavonic Recensions,” *Slovo: časopis Staroslavenskoga instituta u Zagrebu* 67 (2017), pp. 1-21.
88. “Uz-Prefixation and Dependent Future in Croatian,” *Rasprave: Časopis Instituta za hrvatski jezik I jezikoslovlje* 43/2 (2017), pp. 379-397.
89. 「近代国家の法における民衆言語 — V.ボギシッチの言語観 — 」『青山ローフォーラム』6 巻 2 号、2018 年、1-20 頁。
90. “The Dream of King Jehoash: a Textual Analysis,” *Scrinium* 14 (2018), pp. 298-317.
91. 「環バルト海地域の言語接触と言語変化」『スラヴ学論集』21 号、2018 年、55-79 頁。
92. 「『聖徒彼テロとアンデレの異教徒の町への伝道物語』のスラヴ写本比較考察」『SLAVISTIKA』33/34 号、2018 年、125-144 頁。
93. Текстологический и лингвистический анализ списков «Деяний апостолов Петра и Андрея в стране варваров» // Труды Института русского языка им. В. В. Виноградова (Лингвистическое источниковедение и история русского языка 2016–2017). 2018. № 16. С.158–171.
94. 「ヴァルタザル・ボギシッチと法・慣習・言語」『東京大学草創期とその周辺：2014-2018 年度多分野交流演習「東京大学草創期の授業再現」報告集』2019 年、206-218 頁。
95. 「スカンデルベグ物語 伝説とヴァリエーション」『れにくさ（沼野充義教授退職記念号）』10(1)号、2020 年、457-469 頁。
96. 「スラヴ世界における Acta Thomae Minora (『小トマス行伝』) の伝統とグリゴローヴィチ・コレクション No. 22」『ロシア語研究』29 号、2019 年、147-167 頁。
97. “Intertextuality in Medieval Slavonic Literature: Apocalypse of Pseudo-Methodius and the Legend of the Twelve Fridays,” *Scripta & e-Scripta* 19 (2019), pp. 145-164.
98. “Slavonic Tradition of the Apocryphal Acts of Thomas in India and the MS 1789/700 of the Dragomirna Monastery (Moldavia, Romania),” *Scripta & e-Scripta* 20 (2020), pp. 199-226.
99. 「『ヨブの遺訓』スラヴ語版 言語の変異性とテキスト属性の関係」『SLAVISTIKA』35 号、2020 年、471-486 頁。

100. “Formation of Legal Language in the Nineteenth-Century South Slavic Lands and Japan,” in Zoran Rašović, MITANI Keiko, KASAI Yasunori, and MATSUMOTO Emi, eds., *Comparative Studies of Civil Law between Modern South Slavic Regions and Japan: Structure, Origin, and Language* (Podgorica: Montenegrin Academy of Sciences and Arts, 2020), pp. 11-32.
101. “The Twelve Dreams of King Shahaisha. Comparison of Early Russian Copies and the South Slavonic Tradition,” in *Comparative and Contrastive Studies in Slavic Languages and Literatures: Japanese Contributions to the 16th International Congress of Slavists, Belgrade, August 20-27, 2018*, Sophia European Studies Series, no. 13 (Tokyo: European Institute, Sophia University, 2021), pp. 55-86.
102. 「中世スラヴ文献における疫病の表現と表象」『スラヴ学論集』24 号、2021 年、105-126 頁。
103. “Linguistic Analysis of the Slavonic Translation of the Testament of Job,” in Maria Cioată, Anissava Miltenova, and Emanuela Timotin, eds., *Biblical Apocrypha in South-Eastern Europe and Related Areas* (Brăila: Editura Istros a Muzeului Brăilei “Carol I”, 2021), pp. 89-108.

V. 論文以外の著述

A. 科学研究費補助金研究成果報告書

104. 『クロアチアおよびボスニアの中世文献の言語分析ならびに南スラヴ語における位置付け』（平成 12-14 年度科学研究費補助金研究成果報告書）〔基盤研究(C)／課題番号 12610545／研究代表者：三谷恵子（個人研究）〕 2003 年、全 170 頁。
105. 『南スラヴ語史の考察 — 14-15 世紀の言語とその文化史的背景を中心に』（平成 15-17 年度科学研究費補助金研究成果報告書）〔基盤研究(C)／課題番号 15520255／研究代表者：三谷恵子（個人研究）〕 2006 年、iv+106 頁。

B. その他の著述

106. 「旧ユーゴの言語戦争」『言語』（大修館書店）23 巻 5 号、1994 年、26-31 頁。
107. 「多言語主義と多言語状態」『言語』（大修館書店）27 巻 8 号、1998 年、28-34 頁。
108. 千野栄一、石井米雄編『世界のことば 100 語辞典 ヨーロッパ編』〔クロアチア語の項〕三省堂、1999 年。
109. 「カルツェフスキー」；「ポリワノフ」『言語の 20 世紀 101 人（「言語」30 巻 2 号別冊）』（大修館書店）30 巻 3 号、2001 年、38-39、70-71 頁。
110. 石井米雄、千野栄一編『世界のことば・出会いの表現辞典』〔クロアチア語の項〕三省堂、2004 年。
111. 「ソルブ語を話す人々（リレー連載『先住民たちの現在』）」『言語』（大修館書店）2005

- 年、34 巻 12 号、8-11 頁。
112. 「クロアチア語」梶茂樹、中島由美、林徹編『事典 世界のことば141』大修館書店、2009年、170-173頁。
113. 「ソルブ人 — ドイツ・ラウジッツ地方に住むスラヴ人（特集：現代に生きる少数民族）」『人環フォーラム』編集委員会編『人環フォーラム』（京都大学大学院人間・環境学研究科）24 号、2009 年、26-29 頁。
114. 「境界上であること — ルシン語とルシン人の場合（特集：境界を科学する）」『人環フォーラム』編集委員会編『人環フォーラム』（京都大学大学院人間・環境学研究科）28 号、2011 年、30-33 頁。
115. 「スラヴ学の礎を築いた人々（日本スラヴ学研究会発足記念シンポジウム記録）」『スラヴ学論集』16 号、2013 年、84-85 頁。
116. 「人の一生 — 通過儀礼と教会」；「祝祭日 — 伝統の祭日と現代の祭日」；「食文化 — 無形文化財の日常食」；「家族 — 家庭生活の今昔」；「言語 — 標準語と方言」；「文字と言語文化 — 三文字文化の歴史と伝統」「ブルゲンラント・クロアチア人」柴宣弘、石田信一編『クロアチアを知るための 60 章』明石書店、2013 年、166-170、171-175、191-195、196-200、212-216、217-221、285-287 頁。
117. 「ウクライナ — ボスニア：国が消えて国境が残る物語」『文化交流研究』28 号、2015 年、1-7 頁。
118. 「・（なかぐろ）の意味」『京都大学総合人間学部広報』54 号、2015 年、20-21 頁。
119. 「言語はかけがえのあるものか — ソルブ語とソルブ文学から見た言語のかけがえ性について — 」『れにくさ』6 号、2016 年、30-35 頁。
120. 「メシヤ・セリモヴィッチ」；「ミロラド・パヴィッチ」；「ソルブ語とその文学」奥彩子、西成彦、沼野充義編『東欧の想像力（現代東欧文学ガイドブック）』松籟社、2016 年、138-139、140-141、152-154 頁。

VI. 書評

121. 「山口巖著『類型学序説 — ロシア・ソヴェト言語研究の貢献』」『ロシア語ロシア文学研究』28 号、1996 年、116-121 頁。
122. 「生田美智子著『大黒屋光太夫の接吻 — 異文化コミュニケーションと身体』」『ロシア語ロシア文学研究』30 号、1998 年、144-146 頁。
123. 「浦井康男著 コンコードダンス三部作」『ロシア語ロシア文学研究』33 号、2001 年、151-153 頁。
124. 「石川達夫『チェコ民族再生運動 多様性の擁護あるいは小民族の存在論』」『SLAVISTIKA』26 号、2010 年、96-99 頁。

125. 「石川達夫『チェコ民族再生運動 多様性の擁護あるいは小民族の存在論』『ロシア・東欧研究』39号、2010年、106-108頁。

VII. 学会等報告（2013年以降）

126. “Direct Evidentiality and Illocutionary Acts. Slavic Evidentiality Viewed from Japanese *-gar(u)* and *-soo*,” Slavic in Language Map of Europe. Questions of Areal Typology, Slavic Research Center, Hokkaido University (Sapporo), August 12, 2013.
127. “Posuđivanje u jezičnom dodiru i struktura jezika. Razmatranje na temelju podataka iz govora moravskih Hrvata,” (「言語接触における借用と言語の構造。モラヴィア・クロアチア語のデータから見た考察」) The 15th International Congress of Slavists, Minsk State Linguistic University, August 23, 2013.
128. 「ボスニアの境界性とボスニア人の祖国イメージ」ロシア東欧学会・JSSEES合同大会 共通論題報告「ロシア・東欧における人と生活、境界線」津田塾大学小平キャンパス、2013年10月5日。
129. “Russian Language Study. Actual Situation and Challenges,” 2nd Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia, Lomonosov Moscow State University, October 11, 2013.
130. 「多民族社会におけるアイデンティティの形成・分断・再統合 — ヴォイヴォディナ地域研究確立に向けて — 」(地域研究コンソーシアム) 北海道大学東京オフィス、2014年2月2日 [討論者]。
131. “Translating Derviš. Literary Translation as Intercultural Communication,” International Forum Bosnia (Mostar), August 3, 2014.
132. 『アキル』はどう伝わったのか — 南スラヴ語圏テキストの関係」特別セミナー「スラヴ文献言語学の課題と新たなアプローチ — 『賢者アキルの物語』の分析を例に」東京大学文学部、2016年10月11日。
133. “Rewriting Words of Wisdom: The Slavic Recensions of the Story of Akir the Wise,” International Symposium “The Story of Akir the Wise: A New Approach to the Medieval Slavic Literature,” Slavic Research Center, Hokkaido University (Sapporo), March 16, 2015.
134. Акир премудрый между Slavia Orthodoxa и Slavia Latina: южнославянские списки текста «Слово Акира премудрог» // “The Story of Akir the Wise: A New Approach to the Medieval Slavic Literature”. The University of Tokyo. 18 марта 2015.
135. Повесть об Акире премудром: южнославянские списки и вопросы деятельности переписчиков в культурно-общественном окружении средневековья // The Ninth World Congress of the International Council for Central and East European Studies. Университет международных исследований Канда. 07 августа 2015.

136. 「『12の金曜日の物語』スラヴリセンション写本の比較研究」第65回日本ロシア文学会全国大会、埼玉大学、2015年11月8日。
137. “Uz-prefixation and the Second Future in Croatian,” *The Aspectual Semantic Zone: Typology of Systems and Scripts of Diachronic Progresses* (The Fifth Conference of the International Commission on Aspectology of the International Committee of Slavists), Kyoto Sangyo University, November 14, 2015.
138. “Apocrypha in Apocrypha: The Story about Twelve Fridays,” Workshop “Slavic Apocrypha viewed from Inside and Outside the Slavic World (‘New Approaches to the Medieval Slavic Texts’ Series),” Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University (Sapporo), March 15, 2016.
139. “‘The Story about the Twelve Fridays’: A Text-Critical Study of South Slavic and Russian Manuscripts,” The 20th Conference on Balkan and South Slavic Linguistics, Literature and Folklore, The University of Utah, April 29, 2016.
140. “The Dream of King Jehoash: Textual structure and Intertextuality,” The Annual Meeting of the European Association for Biblical Studies, Leuven Catholic University, July 19, 2016.
141. “Dalikanje: da li je to loše? (is that bad?): Realia of Language Use and Standard Language Ideology in Croatia,” International Symposium “Standard Language Ideology in the Slavic Lands,” Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University (Sapporo), August 6th, 2016.
142. Сивилла и Сивиллины сказания: славянские сказания о пророчице с гусиными ногами // Динамические аспекты средневековой славянской письменности: текст, язык, образ повествования. 66-я ежегодная конференция Японской ассоциации русистов. Университет Хоккайдо. 22 октября 2016.
143. “Slavic Versions of the Skanderbeg Story: Textual Relationship and Narrator Attitude,” Балканские чтения 14. Балканский тезаурус: взгляд на Балканы извне и изнутри, Institute for Slavic Studies of the Russian Academy of Sciences (Moscow), April 19, 2017.
144. “Croatian Glagolitic Texts of ‘The Story about the Twelve Fridays’: Textual Features and Relationship with other Slavonic Copies,” Međunarodni znanstveni skup Fenomen glagoljice. Biograd-Zadar, May 13, 2017.
145. 「環バルト海地域の言語接触と言語変化」日本スラヴ学研究会シンポジウム「バルト諸語とその隣人たち」埼玉大学、2017年6月17日。
146. “Evolutionary Change and Adaptive Change in Croatian — What Andersen’s ‘Abductive and Deductive’ Model Tells us about Language Change,” The 23rd International Conference on Historical Linguistics, Hotel Contessa San Antonio (Texas), August 2, 2017 [Skype participation].

147. “Inscription on Solomon’s Chalice in Chapter XIII of ‘Vita Constantini’: An Old Question Revisited,” Society of Biblical Literature – European Association of Biblical Studies International Meeting, Humboldt University (Berlin), August 10, 2017.
148. Лингвистический и текстологический анализ славянских списков повествования «Деяния апостолов Петра и Андрея в стране варваров» // Между источниками и списками: текстологические исследования средневековой славянской письменности. 67-я ежегодная конференция Японской ассоциации русистов. Университет София (Токио). 15 октября 2017.
149. 「V. ボギシッチの事績に見るバルカン研究の可能性」地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ基調講演「バルカン地域研究の新展開 — 民族文化の越境・接触・変化をめぐる多角的研究をめざして」東京大学、2018年2月3日。
150. “Significance of Textual Transcendence in Medieval Slavonic Literature: Apocalypse of Pseudo-Methodius and The Story about The Twelve Fridays,” International Seminar “Transtextuality in Medieval Slavonic Literature,” Slavic and Eurasian Research Center, Hokkaido University (Sapporo), March 7, 2018.
151. “Importance of Intertextuality in Medieval Slavonic Literature: Apocalypse of Pseudo-Methodius in the Legend of Twelve Fridays as a Case,” International Conference of Society of Biblical Literature / European Association of Biblical Studies, University of Helsinki, July 31, 2018.
152. “Dvanaest snova Šahinšahi: rani ruski prijepisi u poredbi sa južnoslavenskom tradicijom,” XVI. Međunarodni kongres slavista, Filološki fakultet Univerziteta u Beogradu. 21. kolovoza 2018.
153. “Legal Language Questions in the History of Serbian, Croatian, and Montenegrin: The Nineteenth-century Situation Viewed from the Perspective of Forensic Linguistics,” International Symposium “Languages rising above Empires, Blocks and Unions, 1918-2018,” Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University (Sapporo), December 14, 2018.
154. 「ユーゴスラヴィアとポストユーゴスラヴィアの文学 — 多文化空間の語り部たち」北海道大学スラブユーラシア研究センター平成31年度公開講座第5回「再読・再発見：スラブ・ユーラシア地域の古典文学と現代」北海道大学、2019年5月24日。
155. “Lexical and Grammatical Features of the ‘Apocryphal Acts of Thomas in India’ in MS No. 1789/700 of the Dragomirna Monastery (Moldavia),” The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, The University of Tokyo, June 30, 2019.
156. “The Slavonic Tradition of the ‘Apocryphal Acts of Thomas in India: How many Translations and How did they appear?’,” 2019 International Meeting of the Society of Biblical Literature, The Pontifical Gregorian University (Rome), July 3, 2019.

157. “The Slavonic version of the Testament of Job: Language variability and Textual attributes,” 12th International Congress of South-East European Studies, Faculty of Law of the University of Bucharest, September 6, 2019.
158. 「グラゴル派聖務日課書の中の『コンスタンティノス一代記』」パネル発表「『コンスタンティノス一代記』再訪 — コンスタンティノス＝キュリロス没後1150年によせて — 」第69回日本ロシア文学会全国大会、早稲田大学、2019年10月27日。
159. “Legal Language and Language standardization: V. Bogišić and the nineteenth-century South Slavic regions,” International Symposium “Comparative Studies of Civil Law between Modern South Slavic Regions and Japan: Structure, Origin and Language”, Montenegrin Academy of Sciences and Arts (Podgorica), November 18, 2019.
160. 「旧ユーゴスラヴィアの言語と国家」ロシアユーラシア研究会（オンライン）、2020年12月15日。
161. 「『シャハイシャ王の12の夢』 — スラヴ世界の孤児のアポクリファの研究方法」シンポジウム「スラヴ語・スラヴ文学の比較対照研究 — 第16回国際スラヴィスト会議への日本の寄与 — 』上智大学ヨーロッパ研究所・日本スラヴィスト協会共催（オンライン）、2021年1月9日。
162. 「旧約聖書『ヨブ記』と旧約偽典『ヨブの遺訓』：スラヴ語訳の比較研究」第71回日本ロシア文学会全国大会、筑波大学（オンライン）、2021年10月30日。

特別講義

163. “Valtazar Bogišić, Japan, and 19th century South Slavic Regions,” University of Ljubljana, Faculty of Arts, December 10, 2019 [Erasmus+ Program].
164. “Slavic Studies in Japan,” University of Ljubljana, Faculty of Arts, December 11, 2019 [Erasmus+ Program].

受賞等

1989年10月 日本ロシア文学会学会報告優秀賞

主要教育活動

A. 京都大学大学院人間・環境学研究科・総合人間学部

I. 大学院教育

- (修士課程) 共生文明学研究Ⅰ・Ⅱ、比較言語文明論Ⅰ・Ⅱ、地域文明論演習Ⅰ・Ⅱ
- (博士後期課程) 共生文明学特別研究Ⅰ・Ⅱ, 地域文明論特別演習Ⅰ・Ⅱ, 比較文明論特別セミナー

II. 学部教育

- 東ヨーロッパ比較言語論A・B, 東ヨーロッパ比較言語論演習A・B

III. 全学共通教育

- ロシア語Ⅰ・Ⅱ、ロシア語ⅠA・ⅠB (文法)、ロシア語ⅡA・ⅡB

B. 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部

I. 大学院教育

- スラヴ語文法研究、スラヴ語史研究

II. 学部教育 (言語文化学科・人文学科)

- スラヴ語学の諸相、古教会スラヴ語入門、古スラヴ文献講読
- 文学とは何か (現代文芸論)

III. 大学院・学部共通教育

- ボスニア語・クロアチア語・セルビア語入門、ボスニア語・クロアチア語・セルビア語初級、ボスニア語・クロアチア語・セルビア語研究、ロシア・東欧の言語と民族、スラヴ語史入門、スラヴ語学入門、スラヴ語学概論、スラヴ語学研究、南スラヴ語比較研究
- ヨーロッパの言語と社会 (現代文芸論)

外部資金・共同研究など

1. 1990-1992年度 科学研究費補助金 一般研究 (B) 02451063
「ロシア19世紀後期の文学に見る『社会的心性』の研究」(研究分担者)
2. 1991-1992年度 科学研究費補助金 総合研究 (A) 03301059

- 「第二次世界大戦後の東欧における宗教文化の変容」(研究分担者)
3. 1995-1998年度 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 07401016
「空間表現の文法化に関する総合的研究」(研究分担者)
 4. 2000-2002年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 12610545
「クロアチアおよびボスニアの中世文献の言語分析ならびに南スラブ語圏における位置付け」(研究代表者・個人研究)
 5. 2003-2005年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 15520251
「南スラヴ語史の考察 — 14-15世紀の言語とその文化史的背景を中心に」(研究代表者・個人研究)
 6. 2003-2006年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 15310171
「スラヴ世界における文化の越境と交錯」(研究分担者)
 7. 2005-2006年度 科学研究費補助金 特別研究員奨励費 05F05806
「自然言語の音声学的分析ならびに談話分析を対照言語学の立場から進める」(研究代表者)
 8. 2005-2008年度 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 17202008
「スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗のパラダイム」(研究分担者)
 9. 2006-2009年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 18520307
「旧ユーゴスラヴィアのメディア、言語、アイデンティティー」(研究代表者・個人研究)
 10. 2008-2012年度 科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型) 20101007
「地域大国の文化的求心力と遠心力」(連携研究者)
 11. 2009-2011年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 21520315
「スラヴ語スラヴ文学比較対象研究の課題と方法」(研究分担者)
 12. 2011-2015年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 23520505
「言語の維持と変容についての総合的研究 — スラヴ系少数言語の実証的分析をふまえて — 」(研究代表者・個人研究)
 13. 2013-2017年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 25284074
「東欧革命以降のスラヴ世界におけるマイクロ文語の総合的研究」(研究分担者)
 14. 2013-2018年度 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 25243002
「越境と変容 — グローバル化時代におけるスラヴ・ユーラシア研究の超域的枠組みを求めて」(研究分担者)
 15. 2015-2019年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 15K02505
「多言語空間ボスニアの言語状況の解明」(研究代表者・個人研究)
 16. 2017-2022年度 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 17H01641

「新コーパスに基づくカシュブ語文法の多階層的研究」(研究分担者)

17. 2019-2023年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 19K00544

「南スラヴ語史研究 ― 半世俗的テクストの分析を通して ― 」(研究代表者・個人研究)

18. 2020-2024年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 20K01262

「法典化と法格言 ― 古代法・スラヴ法・近代西洋法」(研究分担者)

学会活動

- 日本ロシア文学会
副会長 (2013年12月-2017年10月)、大会組織委員長 (2014年度・2016年度)、会長 (2017年全国大会から2021年全国大会まで)
- 日本スラブ東欧学会
理事 (2008 - 2015年度)、編集委員長 (2008 - 2009年度)
- 日本スラヴ学研究会
企画・運営委員 (2011年 - 2015年6月)、企画編集委員長 (2019年6月以降)
- ロシア・東欧学会
理事 (2015年11月- 2018年11月)
- 日本言語学会
会員
- European Association of Biblical Society
会員
- Slavic Linguistics Society
会員

委員歴

- 東京大学ハラスメント委員 (2014-2015年度)
- 東京大学総長補佐 (2016年度)
- 東京大学学生懲戒委員 (2018-2019年度)

非常勤講師

- 早稲田大学文学学術院 (2017年度以降「スラヴ語学特論 (古教会スラヴ語入門)」担当)

その他の活動

- 大阪大学世界言語研究センター研究協力者（2008-2011年度）
- 北海道大学スラブ研究センター運営委員会委員（2008年12月- 2010年11月）
- 北海道大学スラブ研究センター共同研究員
- 北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会委員（2010年12月 - 2011年度）
- 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究員
- *Rasprave*, International Board Member (Since 2015)
- *Slovo*, International Advisory Committee Member (Since June 2018)